

PCR Connect 第6回年次集会

演題：アドバンス・ケア・プランニング

聖隷三方原病院緩和支援治療科 森雅紀

近年、医療や介護の現場でアドバンス・ケア・プランニング（ACP）が注目され、2018年の「人生の最終段階の医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」でも推奨されている。しかし、ACPを実践する際には、多くの障壁が存在し、何から始めるべきか戸惑うことが少なくない。本講演では、ACPの歴史的経緯を概説し、特に事前指示書から話し合いのプロセスが重視されるようになった流れを振り返る。また、無作為化比較試験などを含むACPのエビデンスを整理し、短期的なアウトカムの改善はみられるものの、目標に合致したケアやQOLの向上など長期アウトカムの改善が必ずしも見られなかったことを紹介する。ACPに対する推進派と懐疑派の議論を踏まえ、臨床現場においてACPがどのように役立つか、課題解決の一助となりうるかを検討する。ACPは手段であって目的ではない。臨床現場では現実的な課題に焦点を当て、ACPがその解決にどう貢献できるかを考えていくことが重要になる。(400字)